

平成29年度

事業報告書



南房総市社協マスコットキャラクター「みなみん」

 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

目 次

○はじめに	3
1 地域福祉の推進	
(1)地域福祉ネットワーク事業	
① 地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み	7
(2)地域生活支援事業	
① 介護者のつどい	10
② 敬老事業	11
③ 福祉団体支援	12
④ 福祉施設の運営(公益事業)	12
⑤ 法律相談事業	12
(3)広報啓発事業	
① 広報啓発	14
② 社会福祉大会	14
(4)福祉活動支援事業	
① 福祉教育の推進	16
② 子育て活動支援	17
2 高齢者の在宅生活の支援	
(1)在宅福祉支援事業	
① お達者サロン支援事業	17
② ふれあいランチサービス事業	18
③ 紙おむつ給付事業	18
④ 交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)	19
⑤ 生活援助サービス(みなみん・おたすけサービス)	20
⑥ 福祉車両・福祉機器貸出事業	21
⑦ 日常生活自立支援事業	21
⑧ 生活困窮者自立相談支援事業	22
⑨ 応急援護資金交付事業	23
⑩ 福祉機器リサイクル事業	23
3 在宅生活を支援する資金の貸付	
(1)資金貸付事業	
① 福祉資金貸付事業	23
② 生活福祉資金・老障資金貸付事業	23
4 ボランティア活動の支援	
(1)ボランティア活動支援事業	
① ボランティア連絡協議会の運営	24
② ボランティア・市民センターの整備	24
③ ボランティア養成講座	25

④ 災害ボランティア活動	26
⑤ ボランティア助成事業	26
5 共同募金運動の推進	
(1)共同募金事業	
① 赤い羽根共同募金運動	27
② 歳末たすけあい運動	28
6 居宅介護の支援	
(1)介護保険事業	
① 居宅介護支援事業	29
② 訪問介護事業	30
(2)障害福祉サービス事業	
①居宅介護事業	30
(3)介護保険外事業	
① 在宅生活支援事業	31
② 高齢者外出支援事業	31
7 社会福祉協議会の活動基盤整備	
① 会員募集の状況	32
② 基金積立額	32
③ 理事会・評議員会の実施状況	33

平成29年度 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会事業報告

○はじめに

「互いにささえあい、誰もが安心して暮らせる福祉社会の実現」を目指し、地域の方々や関係機関・福祉関係団体との協働により平成29年度の事業を実施した。

要支援者を地域で包括的に支える住民主体のささえあいの体制づくりを目指し、市の委託を受け実施した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)は2年目を迎え、各地区の生活支援コーディネーターを中心に地域の実情に合わせた福祉課題やニーズ解決への取り組みを行った。

また併せて、国が推進する地域包括ケアシステムの構築を目指し、南房総市に住む誰もが役割を持ち、互いにささえあう地域福祉推進の取り組みとして、地域のボランティアや地区社協、ささえあいネットワークメンバーや民生児童委員などの福祉の関係諸機関の方々と連携を図り、事業を実施した。

また地域支援と併せ、県社協受託事業である「日常生活自立支援事業」や市受託事業である「生活困窮者自立相談支援事業」を継続して取り組み、社会的孤立、生活困難な方々への個別支援に取り組んだ。

また法人運営に関しては、社会福祉法の改正に伴い、更なる地域福祉の推進を図るためにガバナンスの強化を徹底し、社協としての役割を明確にし、組織の体制整備に努めた。

平成29年度の主な活動状況を、次のとおり報告する。

○平成29年度の主な事業活動の概要

(1) 地域福祉の推進

地域にある様々な課題を取り上げ協議し解決を図るため、地域のあらゆる人々が福祉の担い手となり、それぞれの地域の特性を活かした住民相互によるささえあいを支援するささえあいネットワーク南房総(協議体)では、各地区に生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉ニーズの把握、資源開発や関係者のネットワークづくりが進められた。

特に、高齢者等の閉じこもり予防をテーマに、ボランティアを主体とした身近な地域で集う「お達者サロン事業」は各地区に広がり、サロンを拠点に介護予防・認知症予防の取り組みが進められた点は大きな成果となった。今後もお達者サロンは広がりつつあり、次年度に向けより多くの集いの場ができることが期待されている。

また、併せて関係者や担い手の方々との情報共有を図るため、生活支援コーディネーターが各地区の取り組みの成果を発表した。各地区の課題やニーズを共有することで「自分たちの住む地区でどのようなささえあい活動をしていくのか」を改めて認識する機会となった。

相談事業では、今年度も専門的な相談支援機能の強化を図るため、引き続き弁護士・司法書士による無料法律相談を毎月開催し、身近な地域で専門相談ができる支援に努めた。

広報啓発事業では、広報紙「てんだあ」の発行と併せ、「ホームページ」や SNS サービスの「ツイッター」「フェイスブック」などインターネットを利用し、よりリアルタイムの情報と親しみやすくわかりやすい福祉情報の提供に努めた。

また12回目となる社会福祉大会では、福祉功労者の功労を讃えるとともに、社協の福祉活動の方針を位置付ける大会とし、多くの関係者が集う大会とした。

福祉教育の推進としては、今年度も思いやりの心を育むため、市内の児童・生徒を対象に「福祉体験講座」「サマーボランティアスクール」への参加や「福祉作文の募集」を行い、福祉に対する知識や理解を深めてもらうことに努めた。

(2) 高齢者等の日常生活の支援

高齢者や障がい者の移動困難者を対象とした「交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)」では、ボランティアやホームヘルパーが通院や買い物等の送迎をし、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう支援した。本事業では、何よりも安全で安心したサービスの提供ができるよう、運転協力者への安全運転者講習会を実施し事業を行った。

閉じこもりを予防し、より身近な地域で集い交流する「お達者サロン」を各地区に広げるため、ささえあいネットワークを中心に協議、お達者サロンの支援の充実を図った。ボランティア主体のサロン運営が各地区でスタートし、ささえあい活動の輪が広がっている。これは大きな成果であり、地域住民同士のつながりが増した。

また、昨年度から実施した要支援者を地域で支える新たな取り組みとして、地域のボランティアの協力による、高齢者や障がい者に対する、生活上の軽易な家事援助を中心とした有償の生活援助サービスを実施した。まだまだ周知不足と課題はあるが、引き続き体制を整備し支援の充実を図っていく。

預金管理や福祉情報の提供などをサポートする「日常生活自立支援事業」では、年々困難ケースもでてきており、生活支援員や専門員のスキル向上が必要となっている。その点をふまえ、専門分野である「成年後見制度」や「精神障害者などの対応」など研修や情報交換会を実施し、専門員と生活支援員、専門の方々とチームで支援ができるよう協議を重ね、利用される方々へのより良い支援ができるよう努めた。

生計困難者の自立支援として、「生活困窮者自立相談支援事業」については、引き続き専門の職員を配置し、相談者に寄り添いながら自立して安定した生活が送れるよう支援した。家計相談支援事業では、嘱託の家計相談員を配置し、より具体的な個別の支援を実施した。複雑・困難ケースの相談が増加している傾向もあり、昨年度同様、他の専門機関と連携を図り、より総合的な支援ができるよう努めた。

ボランティアの協力による手作り弁当を宅配し、安否確認を行う「ふれあいランチサービス事業」では、多くの地域の方々の協力により成り立っており、サービスを通して孤立しやすい一人暮らし高齢者を地域で見守るコミュニティーづくりの取り組みが進められた。

(3) 在宅生活を支援する資金の貸付

低所得世帯の経済的な自立を促し、地域社会で安定した生活の確保を図ることを目的に資金の貸付を行った。貸付にあたっては、今年度も行政や地域の民生児童委員・県社協と連携のうえ貸付世帯が自立できるよう適切な貸付にあたった。相談内容は年々複雑多様化しており、単なる貸付だけではなく個別の生活支援という観点からも要望が増えている。利用者

の初期相談を含めスキルが求められる中、相談に対してのケースワークの研修を積み、日常生活自立支援事業「生活困窮者自立相談支援事業」と併せ、総合的な支援ができるよう取り組んだ。

(4) ボランティア活動の支援

ボランティア活動の環境の更なる充実を図るため、引き続きボランティアの登録・あっせん、養成講習及びボランティア保険の加入等を行った。平成29年度からボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動の運営・調整の充実に努めた。

また、地域でのささえあい活動の推進に向け、地域の高齢者等の生活を支援するため「担い手養成講座」を開催し、「お達者サロン」「みなみん・おたすけサービス」などの協力ボランティア増員に努めスキルアップを図った。

災害時に活動していただく災害支援ボランティア活動では、災害ボランティアの在り方や養成講座開催に向け、委員会で検討を重ね講座を行った。また、災害時に災害ボランティアセンター立ち上げに向け、マニュアルの見直しを行い、実際にボランティアセンター立ち上げ訓練で検証したことは、大きな成果となった。次年度もその検証をふまえ、よりよいマニュアルづくりを継続して実施したい。

「サマーボランティアスクール」では中学校や関係施設・ボランティアの協力により、市内中学生を対象に実施し、今年度も若年層のボランティア育成に努めた。地域のボランティア実践者とのグループワークを行い、より実践的なボランティア活動を知ってもらう機会とした。また施設でのボランティア体験や災害ボランティア体験を行い、将来の担い手となるべきマンパワー養成に努めた。

(5) 共同募金運動の推進

今年も地域福祉活動の推進を目指し全国一斉に行われた共同募金運動は、地域の方々のご理解・ご協力のもと活動が展開された。歳末助け合い運動では、市内の中学生や民生委員も街頭募金に参加し、活動の輪が広がった。寄せられた募金については配分委員会で配分方法等について検討し、地域福祉事業に活用するとともに、要支援者世帯へ配分した。平成29年度は、配分金額の見直しが行われた。今後も、配分委員会を通して課題を協議し、適正な配分計画が実施できるよう努めていく。

全国的にも、募金の低迷が課題となる中で、当市においては、ほぼ例年に近い募金が寄せられている。地域の方々の福祉に対する理解もあり、地域に根差した募金活動の展開を図るため、チラシを配布し、どのように募金が有効活用されているか周知を図り実施した。

(6) 居宅介護の支援

介護保険制度の改正に伴い、本会が実施する居宅介護の支援については、外出支援サービスなど、他事業所が実施しないサービスを主とした、多様なニーズの補完的な役割を持って社協らしいサービス提供に努め実施した。今後も、要支援者への支援の在り方が変わり、また介護予防・日常生活支援総合事業がスタートした中で、社協としての役割を今一度再確

認し、利用者に寄り添い、自立した在宅生活が送れるよう支援に努めていきたいと考える。

(7) 社会福祉協議会の活動基盤整備

昨年同様、本会の運営資金は市に依存せざるを得ない状況である。しかしながら支えとなる市においてもその財政は年々厳しさを増しており、そのような中で、本会も自己資金等を活用し、市からの補助金を極力減らすことに努めた。

また、平成29年度より社会福祉法が全面改正され、社会福祉法人改革として経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化などに努め、定款及び経理規程をはじめ諸規程の改正、またそれに準じ、役員及び評議員の改選、また計算書類の適正な整備などを行った。

本会は、これからも社会福祉法人という、公益性の高い法人としての使命達成により一層努力していかなければならない。

これまでも、理事会、評議員会等で事業運営方針や各センターの在り方について検討してきたが、今後懸案であった地域福祉活動計画の策定にも着手し、その議論を更に進め、限られた職員体制の中でいかに効率良い組織運営を行うかを見極めていく必要がある。

以上のように、平成29年度においても、住民の方々と協働を主体とした活動に併せ、専門性を備えた民間の社会福祉団体として、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすことのできる「福祉のまちづくり」を目指した福祉活動を広く実施した。

1 地域福祉の推進

(1)地域福祉ネットワーク事業

①地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み

助け合い、支え合いの精神のもと市内16の地区社協で交流会や会食会を通し、地域支援活動が実施された。また地区社協の連携を図るため連絡会議を開催した。各地区の事業報告を発表し、情報交換や地区社協相互の連絡調整、地域福祉の推進について活動方針が検討された。

また高齢者の生活支援体制整備事業として市内7地区に配置した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)においては生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉課題を地域でささえあい解決できるネットワークづくり、仕組みづくりが進められた。さらに、年度末には各地区の生活支援コーディネーターによる取り組みの報告会を実施し、地域の福祉関係者と情報交換や情報共有を行った。

★地区社会福祉協議会の活動内容 事業費:383,628 円

No	地区社協名	活 動 内 容
1	富浦地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、研修会開催、いきいきサロンを開催し交流を図った。 こらぼ♡富浦(協議体)へ参加。
2	八東地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、研修会を開催、いきいきサロンを開催し交流を図った。また、友愛訪問活動を実施、安否確認を行った。 こらぼ♡富浦(協議体)へ参加。
3	岩井地区社会福祉協議会	地区別(7地区)サロン及び全体の会食会や健康増進スポーツ大会を開催し、交流を通して介護予防の活動を行った。アットホームとみやま(協議体)へ参加。
4	平群地区社会福祉協議会	小地区でいきいきサロンの開催、地域の神社清掃、高齢者日帰り旅行などを実施、また、地区全体で介護予防の取り組みを広めるフォーラムを開催し、地域住民との交流を図った。アットホームとみやま(協議体)へ参加。
5	滝田地区社会福祉協議会	いきいきサロン・健康教室の開催やボランティアと連携し餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。独居高齢者友愛訪問活動を行い、地区の安否確認を行った。よりどころみよし(協議体)へ参加。
6	国府地区社会福祉協議会	いきいきサロン・健康教室の開催やボランティアと連携し餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。独居高齢者友愛訪問活動を行い、地区の安否確認を行った。よりどころみよし(協議体)へ参加。

7	稲都地区社会福祉協議会	いきいきサロンやふれあい交流会を開催、またボランティアと連携し餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。ハザードマップを修正、独居高齢者友愛訪問を実施し、安否確認を行った。よりどころみよし(協議体)へ参加。
8	白浜地区社会福祉協議会	地域別高齢者のつどい、二世世代交流、家庭介護教室を開催し地域住民との交流を図った。広報誌を発行し、地域の方々へ広報啓発を図った。やあばっしえ白浜(協議体)や認知症についてのまちづくり検討会等の参加。
9	長尾地区社会福祉協議会	地区別高齢者のつどい、二世世代交流、家庭介護教室を開催し地域住民との交流を図った。やあばっしえ白浜(協議体)や認知症についてのまちづくり検討会等の参加。
10	千倉地区社会福祉協議会	「高齢者ふれあいの日」を年3回開催し、地域の子供達や参加者同士の交流を図った。ほっとらいふ千倉(協議体)と協働し、中学校においての防災講座を実施し、災害に備える啓発活動を実施した。ほっとらいふ千倉(協議体)へ参加。
11	丸 地区社会福祉協議会	地区サロンやいきいき交流会を開催し、地区住民の交流を図った。おたがいさまネットワークまるやまやボランティアと協力し環境美化活動・歳末たすけあいのしもち配布事業を実施した。おたがいさまネットワークまるやま(協議体)へ参加。
12	南 地区社会福祉協議会	地区サロンやいきいき交流会、音楽会を開催し、地区住民の交流を図った。おたがいさまネットワークまるやまやボランティアと協力し環境美化活動・歳末たすけあいのしもち配布事業を実施した。おたがいさまネットワークまるやま(協議体)へ参加。
13	南三原地区社会福祉協議会	ふれあい会食会を開催し、幼稚園園児・小学校児童との交流を図った。独居高齢者日帰り旅行を実施し介護予防の推進を図った。また福祉まつりを開催し地区住人の交流を図った。わだいすき(協議体)へ参加。
14	上三原地区社会福祉協議会	樟の木を拠点に新たに定例サロンを開催、ふれあい会食会また福祉まつりを開催し、地域住民同士の交流を図った。わだいすき(協議体)へ参加。

15	北三原地区社会福祉協議会	新たに定例のふれあいサロンを開催、また高齢者の会食会や福祉まつりを実施し、地域住民同士の交流を図った。高齢者日帰り旅行を実施し介護予防の推進を図った。花いっぱい事業では環境美化活動を実施した。わだいすき(協議体)へ参加。
16	和田地区社会福祉協議会	高齢者のふれあい会を開催し、幼稚園園児・小学校児童との交流を図った。配食サービスの協力・緊急情報カプセル等のパンフレット配布し安否確認を行った。福祉まつりを実施し地区住民の交流を図った。わだいすき(協議体)へ参加。

★ささえあいネットワーク南房総(新地域支援事業)の取り組み内容 (市受託)

事業費:5,150,000円

No	フォーラム名	活動内容
1	こらぼ♡富浦	身近で歩いて通えるお達者サロンを2ヶ所開設した。また新たに解散したシニアクラブの立ち上げなど地域の中で高齢者等が集える場の拡充を協議し検討した。またアンケートを実施しニーズを把握した。アンケートの結果から移動の問題については、地域の福祉施設の協力を得て送迎車や人員の貸出しなど実施に向け協議を重ねた。
2	アットホームとみやま	高齢者が地域の中で社会参加する仕組みづくりについて取り組んだ。各地区に歩いてこられるサロンの拡充を図った。現在では5か所となった。またサロンの場に宅配サービスなど取り入れられるよう、移動の問題から起こる買い物支援などを協議した。
3	よりどころみよし	「地域の困りごと」アンケートを実施し、ニーズを把握。介護予防の視点から健康寿命を延ばす取り組みをテーマに協議し、モデル地区において健康づくりと見守りの拠点を兼ねた「ふれあいラジオ体操」の取り組みを始めた。また集いの場を拠点に身近にある障害児の施設と連携が図れるよう協議が進められた。
4	やあばっしえ白浜	身近な場所で集うサロンの充実を図った。地区では、なかなかサロンに出向かない傾向があり、出張サロンを企画実施した。より多くの方々の参加があった。課題は協力者である担い手確保であり、協議が進められた。

5	ほつとらいふ千倉	地域の介護予防の場「お達者サロン」は各地区に広がり、計5か所となった。また昨年度から協議を進めてきた「地域の見守り活動」について、具体的に取り組むための協議を重ねた。地域の諸団体も活動をしており、連携も視野に入れ、その仕組みづくりに取り組んだ。
6	おたがいさまネットワークまるやま	移動に関するアンケートを実施しニーズを把握、主にお互いさまでできる移動の問題を解決できる方法を協議した。また、その問題についてより多くの意見を伺うため、多くの方々に参加していただきグループワークを実施した。 サロンでは認知症カフェに加え、新たなサロンが立ち上がった。
7	わだいすき	見守り活動の取り組みとして、緊急情報システムや緊急通報システムの情報を世帯に配布した。お達者サロンは4か所となった。サロンでは、男性の参加が少ないので、より男性に参加してもらえようという取り組みが進められるよう協議した。また、新たに集いの場を設けるだけでなく身近な場所で集える場の洗い出しを行った。
8	ささえあいネットワーク南房総 (本所)	各地区で協議された内容を把握し、第2層(地区)圏域の中での地域課題について生活支援コーディネーターで検討協議を重ねた。また、第1層(市)圏域での協議が始まり、それぞれの取り組み状況を報告し、今後どのように市へ提言していくかなど協議が進められた。

【事業評価】

地区社協活動では、地区社協連絡会において、助成金についての内容を見直すため検討、平成29年度から事業に合わせた助成を行った。

また、ささえあいネットワーク南房総(協議体)として2年目を迎え、各地区では地域のニーズや課題について協議が進められ、その解決への取り組みが行われた。特に介護予防の取り組みとして、各地には「集いの場」であるサロンが広まり、サロンを拠点に様々な関係者も加わり、見守りや介護予防の取り組みが進められた。この事業が更に地域に根差した活動となるよう、次年度へ向け推進していきたい。

(2)地域生活支援事業

①介護者のつどい 事業費:31,137円

在宅介護をしている方や介護に関心のある方を対象に相互の交流・情報交換や介護で抱える共通の悩みを話し合い、お互いに理解しあう時間を作ることにより介護者の心身のリフレッシュを図った。

開催日	内 容	開催場所	参加者数
7月11日	○「杖の使い方・介助の方法」及び情報交換や交流会を実施 講師：市立富山国保病院 理学療法士 渡辺芳久 氏	三芳保健福祉センター	16人
12月12日	○「生活の中で心休まるフラワーアレンジメント」及び情報交換や交流会を実施 講師：南房総市まちの先生 代表 佐貫香織 氏	三芳保健福祉センター	11人
総 計			27人

【事業評価】

介護者のつどいは、介護者の方々の悩みを聞き、仲間同士交流をとおして介護の負担軽減を図り実施してきた。参加された方々には大変喜ばれてはいたが、参加者の固定化や参加者が少ない点が検討課題であった。参加人数が少ない理由は、介護者の高齢化、またその方々が近くで実施している「お達者サロン」にそれぞれ参加されている傾向もあり、お達者サロンの中で交流し情報共有が行われている点から、介護者のつどいは今年度をもって終了とする。

②敬老事業

(1)結婚50周年祝賀事業 事業費：1,170,751 円

結婚 50 周年をお迎えのご夫婦に敬意と祝意を表し、記念品を贈り祝賀会を開催した。祝賀会には 104 名の出席があり、夫婦とも健康で仲睦まじく過ごせた歳月を振り返り、和やかに過ごしていただいた。

(対象：昭和 42 年 9 月 1 日～昭和 43 年 8 月 31 日の間に結婚され市内にお住まいのご夫婦)

開催日	内 容	開催場所	希望対象ご夫婦
10月25日	・記念品贈呈(記念写真・夫婦茶碗) ・祝賀会(会食・音楽と共に懐かしいひとときを：演奏会)	富浦ロイヤルホテル	87組

(2)高齢者肖像画贈呈事業 事業費：951,044 円

長寿をお祝いし、市内最高齢者15名に肖像画を贈呈した。

(大正 6 年 4 月 2 日～大正 7 年 4 月 1 日までに生まれた方)

★地区別贈呈数

地区名	対象該当数
富 浦	3 名
富 山	3 名
三 芳	2 名
白 浜	1 名

千倉	4名
丸山	2名
和田	0名
合計	15名

【事業評価】

結婚50周年を迎えたご夫婦に、今年度も市内のホテルで祝賀会を開催した。普段とは違うホテルの雰囲気の中で、記念写真の撮影や演奏会を楽しんでいただけたと思われる。

一方で、参加人数の増加に伴い、会場の広さと予算の問題、参加負担金をいただき実施しているが、その食事内容が負担金ではまかなえない点など、課題もある。次年度については祝賀会について検討し実施したい。

高齢者肖像画贈呈事業については、白寿のお祝いとして肖像画を贈った。また社協会長が自宅までお届けし、ご家族にも大変喜ばれた。

③福祉団体支援

福祉団体の事務局として市福祉団体(5)、各支部福祉団体(21)の自主運営の促進と団体の事務支援・連絡調整等を行った。

福祉団体名	会議	研修会	事業
南房総市民生児童委員協議会	10回	9回	4回
南房総市老人クラブ連合会	11回	1回	4回
南房総市遺族会	4回	2回	6回
南房総市ひとり親福祉会	3回	3回	5回
南房総市中心身障害者(児)福祉会	5回	3回	5回

④福祉施設の運営(公益事業) 事業費:7,239,084円

平成28年度から5年間の市内社会福祉施設(浴場等)の指定管理委託を受け、施設利用者へのサービスの充実を図った。総利用者数は年々減少しており1,076人減少となっている。より多くの利用者の方々が快適に過ごせるよう室内の環境整備に努め、地域の方々の憩いの場・交流の場の充実を図った。

★ちくら介護予防センターゆらり…延べ利用件数 (単位:件)

	27年度	28年度	29年度	前年比較
利用者数	11,609	9,654	8,578	△1,076
施設利用件数	537	613	432	△181

⑤法律相談事業 事業費:383,628円

平成29年度も千葉県弁護士会と千葉県司法書士会館山支部に委託し市内7地区において、法律問題解決の糸口をつかむため弁護士・司法書士による法律に関する専門的な相談を無料で受け、地域の方々が安定した生活を送れるよう支援した。

★開設実績

内 容（延べ数）	27年度	28年度	29年度	前年比較
開設日数	12日	12日	12日	-
相談員数	12人	12人	12人	-
相談件数	63件	69件	61件	△8

★内容別件数

	内 容	件 数
1	不動産(土地・境界・家屋・墓地・その他所有物)	18
2	相続(遺言・遺産等)	19
3	金銭(借金・貸金の請求)	6
4	離婚・再婚	6
5	家族・親族	4
6	各種契約関係	2
7	地方自治体・学校・自治会・各種団体等	3
8	商業関係	1
9	成年後見制度関係	1
10	その他	1
	合 計	61

★開催場所

開催月日	開催場所	担当相談員	
4月27日	ちくら介護予防センターゆらり	弁 護 士	若林 侑
5月25日	和田地域福祉センターやすらぎ	司法書士	小林裕明
6月22日	とみうら元気倶楽部	弁 護 士	村松浩二
7月27日	丸山公民館	司法書士	山崎勝弘
8月24日	富山ふれあいコミュニティセンター	弁 護 士	関川正則
9月28日	ちくら介護予防センターゆらり	司法書士	酒井敏行
10月26日	三芳保健福祉センター	弁 護 士	浜名 泰
11月16日	白浜コミュニティセンター	弁 護 士	水沼直樹
12月21日	富山ふれあいコミュニティセンター	司法書士	江澤正志
1月25日	丸山公民館	弁 護 士	金澤佳弘
2月22日	三芳保健福祉センター	司法書士	堀川 貢
3月22日	和田地域福祉センターやすらぎ	弁 護 士	高橋信正

【事業評価】

毎月開催しているが、今年度は若干当日のキャンセルもあり人数が減少した。ただし申込みについては、キャンセル待ちの方も出てきている状況で相談の需要は多い。相談者アンケートでは「満足」との回答が多く、近場で開設していることもあり、住民にとっては法律の相談窓口として喜ばれている。

(3) 広報啓発事業

① 広報啓発

(1) 広報紙の発行 事業費：907,718 円

福祉情報の提供と地域福祉をよりご理解いただくため、広報紙「てんだあ」を発行した。住民の方々の声を反映させ、わかりやすく親しみやすい紙面作りに努めた。

★発行部数

広報紙「てんだあ」	発行部数
41号発行(29年7月発行)	15,600 部
42号発行(29年10月発行)	15,600 部
43号発行(30年1月発行)	15,600 部
44号発行(30年4月発行)	15,600 部
年間発行部数	62,400 部

(2) ホームページの開設と更新 事業費：90,072 円

社会福祉協議会の組織、事業等の紹介や福祉情報を提供するためのホームページを公開した。また、ツイッターやフェイスブックによりリアルタイムでの情報を提供した。

南房総市社会福祉協議会 ホームページアドレス

URL: <http://www.shakyo-minamiboso.or.jp/>

【事業評価】

市内の各世帯に配布している広報紙は、南房総市社協の顔「てんだあ」として定着してきていると思われ掲載記事の問い合わせも多い。また、地区に加入していない世帯にも単独配布するなどより多くの世帯に届くよう努めた。また、ホームページ・ツイッター・フェイスブックは全国各地からアクセスがあり、若年層からの支持を得ている。今後もより、リアルタイムの情報掲載に努めたい。

② 社会福祉大会 事業費：740,301 円

地域住民の方々が一堂に会し、今後の福祉活動の方針を位置づけるとともに多年にわたり社会福祉の発展に寄与された方々を表彰する場とした。また小中学生による福祉作文の発表や募金箱コンクールの表彰を実施し、子どもから高齢者までより幅広く多くの方々に参加していただく社会福祉大会とした。

開催日	内 容	開催場所	参加者数
2月11日	<p>○式典 福祉功労者の表彰等</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長表彰の伝達 民生委員・児童委員功労者(10名) ・柴山香代子・小谷由美子・鈴木龍芳・大橋浩子・鈴木瑞子 ・高梨啓子・石井とみ子・高橋悦子・早川恵子・吉野八重子 社会福祉施設・団体関係功労者(1名) ・社会福祉法人 三芳野会 総括施設長 岡田まゆみ 優良地区社会福祉協議会 ・国府地区社会福祉協議会</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長感謝状の伝達(1名) ・和田 和田町民舞の会 会長 櫛原八千代</p> <p>★千葉県共同募金会長感謝状の伝達(7地区) ・富浦 大宮区 富山 井川区・三芳 谷向区 ・白浜 島崎区・千倉 北千倉区・丸山 石神区・和田 下区</p> <p>① 南房総市社会福祉協議会長表彰 地域福祉活動功労者(9名) ・山口満・山本初治・香田達成・新垣美千代・岡崎重夫 ・小原将己・花島光子・西田保政・加瀬久代 地域福祉活動功労団体(3団体) ・おれんじの会・和田町朗読ボランティア・花の里ボランティア</p> <p>② 南房総市社会福祉協議会長感謝状 (個人2名・1団体・社協役職員永年功労5名) ・生稲妙子・池田幸雄 ・演歌親睦協会千葉県事務局 ・茂木正美・渡辺宏・後藤中一・藤井昭雄・川名紀夫</p> <p>③ 南房総市社会福祉協議会福祉作文コンクール表彰状 ・最優秀賞2名・優秀賞4名・優良賞6名</p> <p>④ 共同募金会南房総市支会募金箱コンクール表彰状 ・金賞2点・銀賞2点・銅賞2点 ・アイデア賞2点・デザイン賞2点</p> <p>○福祉作文の発表(最優秀賞2名) ○記念講演 講師 二代目 林家 木久蔵氏 「木久蔵流 笑うが一番」</p>	三芳農村環境改善センター	約300人

同時開催

2月11日	<p><南房総市ボランティア連絡協議会主催></p> <p>○ボランティアまつり ボランティア連協主催のバザー、抽選会を実施 ボランティア活動の紹介や手作り小物展示 手作り製品の販売、喫茶コーナー、絵本の読み聞かせや 人形劇、みなみん塗り絵コーナー(28グループ)</p>	三芳農村環境改善センター	約200人
-------	--	--------------	-------

【事業評価】

社会福祉大会では、「ひとりの想いが大きな輪へ それは笑顔のまちづくり」をテーマに開催した。また、多くの福祉功労者の方々の表彰を行いその尽力された功績を讃えた。記念講演では、林家木久蔵さんを講師に招き、落語を交えた内容の講演は、参加された方々に大変好評だった。

「ボランティアまつり」では市ボランティア連協主催で開催、餅つき大会を感染症防止の為内容を変更し、盛況であるバザーの他、地域の方々が喜んでもらえる抽選会を協賛店に協力していただき実施した。また今年度も、各分野の特性を活かしたボランティアの活動発表を行った。

このボランティアまつりも運営委員が試行錯誤し実施してきたが、より良いまつりとなるよう、単独開催も検討をしながら、ボランティア連協が中心となり進めていきたい。また今年度も、安房地区の障害者施設の方々の参加もあり、来場者の増加にも繋がったものと思われる。

次年度も多くの方々の参加を目指し、楽しい企画で取り組みたい。

(4)福祉活動支援事業

①福祉教育の推進

小・中学校、高校の児童生徒に幼いころから思いやりのある優しい心を育んでもらうことを目的に福祉教育を推進する学校へ助成金を交付した。

各学校では助成金を財源に、美化活動をはじめ福祉施設との交流、地域の高齢者との交流、エコキャップ収集など学校の実情に合わせて福祉教育に取り組んでおり、それらの活動や福祉に対する思いを福祉作文として応募していただき、社会福祉大会時に発表することで大いに励みとなった。

★福祉教育推進助成金交付校 事業費：450,000 円

小学校名			中学校名		高校名
富浦小学校	富山小学校	三芳小学校	富浦中学校	富山中学校	安房拓心 高校
白浜小学校	千倉小学校	南小学校	三芳中学校	白浜中学校	
和田小学校	南三原小学校		千倉中学校	嶺南中学校	
8校			6校		1校

★福祉作文コンクール 事業費：144,156 円

市内の小中高校より 431 点の作文の応募があり、その中から優秀作品12点を選び、最優秀作品2点を社会福祉大会時にて発表した。

(敬称略)

	表 題	学校名	学年	氏 名
最優秀賞	大すきな ふくばあ	南三原小学校	1年	鎌田真実
	高齢者の気持ち	富山中学校	2年	井野百合乃
優秀賞	ぼくが見た福祉	三芳小学校	5年	小沢莉久
	「福祉と認知症」	和田小学校	6年	長谷川友菜
	僕の福祉体験	富山中学校	2年	松田一希
	寄り添うことで生まれる心	安房拓新高校	3年	渡邊詩音

優良賞	母の大切な仕事	富浦小学校	6年	池田海颯
	思いやりの気持ち	南小学校	4年	高梨天音
	共によりそう気持ち	和田小学校	5年	松本 和
	点字	三芳中学校	1年	塩沼光碧
	おばあちゃん、おじいちゃんのお気持ち	白浜中学校	2年	牧野央奈
	あいさつの力	千倉中学校	1年	山口真輝

【事業評価】

福祉教育助成金については、有効に活用していただけるよう学校との関係を作りながら、社協事業の広報に努めた。福祉体験講座等の事業も定着してきているが、課題としては例年同じ学校からの依頼となっている。また、福祉体験講座の依頼がない学校もあるので、次年度は更に周知を図り実施したい。また福祉作文の応募は昨年より 45 点増となった。福祉の担い手となる児童生徒への取り組みとして、今後も継続して実施したいと考える。

②子育て活動支援（市委託） 事業費：5,478,306 円

子育て環境の充実支援のため、学童保育指導員の派遣を引き続き行った。

2 高齢者の在宅生活の支援

(1)在宅福祉支援事業

①お達者サロン支援事業（お達者サロン）（市補助） 事業費：558,478 円

参加される方が身近な場所で交流することで閉じこもりを予防し、生きがいを見だし元気に過ごしていただくことを目的として、ボランティア運営のお達者サロンに助成金を交付し支援した。

★サロン開催状況

	29 年度
サロン開催状況	20ヶ所
利用者参加者数(人)	7,097
協力者数(人)	2,578

★助成金実績報告

14 団体・・・421,000 円

【事業評価】

平成 29 年度から地域ボランティア主体のサロン活動運営がスタートした。各地区には地域の実情に合わせた「お達者サロン」が開催された。介護予防・日常生活支援総合事業の一環とし、参加される方がより身近な場所で集えるよう、またささえあい活動の場が各地区に広がり地域に根差したサロン活動となるよう今後も推進していきたい。

②ふれあいランチサービス事業(無料) 事業費：3,902,028 円

毎月 1 回、ボランティア、地区社協、民生児童委員等が手作り弁当を宅配し、単身高齢者（70 歳以上）と地域の方々とのふれあいを図るとともに健康・生活状況の確認等により在宅生活

を支援した。

★地区別配食数 月平均配食数・・・800食(28年度 810食 比較 10食減)

地区名	延べ配食数
富 浦	737 食
富 山	803 食
三 芳	562 食
白 浜	1,658 食
千 倉	3,722 食
丸 山	959 食
和 田	1,169 食
合 計	9,610 食

協力ボランティア			
調理	1,295 人	月平均	107 人
配食	1,538 人	月平均	128 人

【事業評価】

この事業については民生委員をはじめ地域のボランティアの方々のご協力により欠かすことなく実施されている。訪問活動を通して安否確認を行っているが、多くの方々の理解を得て実施されていることは大きな成果である。一方で、検討課題としては「食」を扱う点であり、事故なく安全にサービスが提供できるよう徹底した衛生管理が必要である、その一つとして平成 29 年度は安房健康福祉センターの指導によりボランティアの検便が実施された。

③紙おむつ給付事業

在宅で介護している家庭の負担を軽減するため、年4回紙おむつを無料配付し、在宅介護を支援した。

(1)紙おむつ給付事業 事業費：1,997,805 円

要介護 3・4・5、重度障害者、療育手帳、精神障害者保健手帳を所持し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とされる方を対象に、年 4 回 1 回あたり介護度 3 は 3,000 円相当、介護度 4・5 は 5,000 円相当の紙おむつを支給した。

★配布実績

(単位：件数)

区 分	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
身 障	147	144	137	△7
要介護 3	118	102	102	0
要介護 4	232	186	127	△59
要介護 5	148	148	131	△17
合 計	645	580	497	△83

【事業評価】

昨年度に比べ要介護 4 の方が大分減っている現状。前年度も同じ傾向である。減っている現状を速やかに把握し、介護支援が必要な方へご利用いただけるよう、社協広報紙等でお知らせしていきたいと思う。

平成 29 年度は利用者へアンケートを実施した。今後はアンケートの内容を踏まえ、より利用者が希望する紙おむつの内容を検討し実施したい。アンケートでは対象者からは「大変助かる」という声

もいただいております、高齢者の多いこの地域には重要な事業のひとつとなっている。

(2)高齢者介護用品支給事業(市受託) 事業費:2,607,187 円

要介護 4・5 の高齢者で前年度、非課税世帯の方を対象に、年 4 回 1 回あたり 25,000 円相当の紙おむつ代を助成した。

★配布実績

(3月末給付実人数)

区 分	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
要介護4	28	27	30	3
要介護5	12	13	13	0
合 計	40	40	43	3

【事業評価】

平成 29 年度は前年度比 3 件の増となっている。紙おむつ給付事業についての申請者が減少する中、本事業の申請者は年々増加傾向にある。ただし、前年度の非課税世帯が対象となるため、対象外となる場合が多い現状であった。その場合は、紙おむつ給付事業で支給がされるよう申請の案内を行い、ご家族の介護負担軽減を図った。

④交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)ボランティア移送サービス事業

事業費: 収入総額:2,973,607 円 支出総額 2,723,613 円 当期残額:229,994 円

会員制の移送サービスで、高齢者・障害者等の移動困難者に対して、運転協力者(ボランティア)が通院、買い物等の在宅生活を支援した。

(1)会員登録数・191 人

(単位:人)

	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
利用会員数	139	133	125	△8
協力会員数	66	63	66	3

(2)ボランティア移送サービス利用実績・1,494 件

(単位:人)

内 容	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
延べ利用者数	1,997	2,007	1,494	513
延べ協力者数	446	441	410	△31

★サービス内容

(単位:件)

内 容	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
病 院	1,283	1,342	1,007	△335
公共機関	130	139	141	2
買 い物	516	460	303	△157
そ の 他	68	66	43	△23
合 計	1,997	2,007	1,494	△513

(3) 運転協力者講習会

輸送の安全確保や、ボランティアの運転技術を維持するため講習会を開催した。

★講習会開催状況

開催月日	内 容	参加者数
6月8日	移送サービス運転協力者講習会(内職員5名)	8人
11月2日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	21人
11月9日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	13人
合 計		42人

【事業評価】

ボランティア移送サービスの年間延べ利用者は昨年度に比べ513人減となっている。この理由については、定期的利用である透析通院を支援ケースが減となった要因ではないかと思われる。過疎化・高齢化が進む南房総市では重要不可欠な事業なので継続して取り組みたい。また、ボランティア移送を実施していく上では安全運転が非常に重要なので、講習会を実施し、事故防止に心がけた。協力者も年々高齢となっているので、千倉自動車教習所にて認知機能テストと実技講習を行った。また、事故が起きてしまった場合の対応を徹底し、より安全で安心したサービスができるよう努めた。

⑤生活援助サービス事業(みなみんおたすけサービス)(新規事業)

事業費:収入総額:97,500円 支出総額:13,750円 当期残額:83,750円

南房総市のお住いの方々のささえあい活動を目的とした会員制の生活援助サービスで、高齢者・障がい者等に対して、協力者(ボランティア)が日常の家事を手伝い在宅生活の支援するサービスに取り組んだ。

(1)会員登録数・・・16人

	28年度	29年度
利用会員数	3人	5人
協力会員数	3人	11人

内 容	29年度
話し相手	7
衣類の洗濯	0
住居の清掃	7
買物代行	5
食事の支度	2
その他	9
合 計	30

【事業評価】

南房総市社協が推進するささえあい活動の位置づけでもある、生活援助サービス(みなみん・おたすけサービス)を実施した。この事業は2年目となるが、徐々に利用が増えているものの利用者は少ない。利用者が少ない要因は、介護保険ではまだ要支援者については「みなし」として、サービス利用が継続されているためかと思われる。今後は、さらに周知活動を行い、協力者を増やしささえあい活動の充実を図るべく本事業が定着できるよう努めたい。

⑥福祉車両・福祉機器貸出事業

(1)福祉車両の貸出 事業費：1,753,795 円

車椅子仕様車両を無料で貸出し、病院の送迎や外出等の在宅介護を支援した。

移送サービスと合わせて車両整備を行い、安全な運営に努めた。

※運転手は利用される方が手配しガソリン代は実費負担。

★年間貸出実績

(単位：件数)

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
福祉車両貸出件数	861	915	752	△163
うち移送サービス件数	693	695	544	△151

(2)福祉機器の貸出

車椅子、ベッド等の介護機器を無料で貸出し、家族の介護負担を軽減することで在宅介護を支援した。

★年間貸出実績

(単位：件数)

福祉機器名	27年度	28年度	29年度	前年度比較
車椅子	84	87	90	3
ベッド	5	8	5	△3
その他	1	0	0	0
合計	90	95	95	0

【事業評価】

福祉車両の貸出は昨年度に比べ163件の減、福祉器具の貸出は3件増となった。この要因は移送サービスの透析利用者が減となった点が伺える。車椅子などは今年度もリサイクルボランティアの協力で、修理やメンテナンスを行ったため、貸出も充実したと思われる。利用者から「大変助かります。」という声もあり、介護保険サービスのつなぎ事業としても車輛・器具を整備し安全な運営に努めていくことが重要である。

⑦日常生活自立支援事業(県社協受託) 事業費：1,005,900 円

高齢者や障がいのある方がその人らしく地域で過ごすために、生活支援員が日常生活における財産の管理や福祉サービスの利用援助をサポートし、安定した生活を支援した。

★年間実績

	27年度	28年度	29年度
新規相談件数	8人	3人	8人
新規契約件数	11人	3人	1人
解約件数	0人	2人	5人
契約件数(3月末)	11人	12人	8人
現任支援員数	9人	8人	6人

【事業評価】

平成29年度は、新規契約件数は1件、解約件数は5件となった。ただし相談は8件増加している。解約については、成年後見制度や施設入所などの移行等である。平成29年度は、生活支援員へ向け情報交換会を実施し、より利用者へ即した支援の充実を図った。併せて、年々困難ケースが増えており、専門員も成年後見制度を踏まえた支援やまたその関係諸機関と連携を図り、スキル向上を目指しながら支援に努めたい。

⑧生活困窮者自立相談支援事業(市受託) 事業費：11,931,456円

生活困難者の抱えている課題を分析し、そのニーズを把握、そして、個々のニーズに応じた自立支援計画を作成し、関係機関と連携調整を図りながら、就労等各種支援を継続的に行い、自立に向け支援した。

★年間実績

	27年度	28年度	29年度
新規相談件数	79件	41件	43件
プラン作成件数 (再プラン含む)	4件	37件	35件
終結件数	1件	9件	13件
支援継続件数	12件	15件	24件

【事業評価】

本事業の利用相談については年々、複雑・困難なケースが多くなっている。「生活保護にならない」また「食い止めるため」のセーフティネットとして、支援員も日々苦慮しスキルアップを目指し対応している現状である。特に、生活課題を抱える方々への支援はすぐに解決できることは難しく、そのご家族に寄り添いながら継続的に対応に努めている。また家計相談と併せて生活内容を見直し、生活再建に向け自立支援に努めている。

1件1件のケースには大変時間がかかり、繰り返し対応し自立に向けた支援をしているが、専門機関と連携しあうことにより個々のニーズにあった支援体制を築き、今後も相談者へ専門チームとして支援していき、社協の役割でもある福祉のはざまの方々への支援として努めたい。

⑨応急援護資金交付事業(一部市補助) 事業費 100,000 円

火災、風水害等の被災者に見舞金をおくり、一時的に被災者の生活支援の一助としている。

★資金交付実績

交付内容	地 区	発生月
半焼	丸山	9月
半壊	丸山	10月
合 計	2件	100,000 円

【事業評価】

平成 29 年度は火災・災害とも件数は減少した。今年度は大規模や中規模の災害発生がなかった。今後も関係部署と連携を図り被災者の生活支援にあたっていく。

⑩福祉機器リサイクル事業 事業費:37,670 円

各家庭で不要になった車いす・歩行器等を受け入れ整備し、必要とする方に提供することで資源の有効活用を図った。

★年間譲受・譲渡実績

(単位:件)

福祉機器 名	27 年度	28 年度			29 年度		
	在庫数	譲受数	譲受数	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数
車椅子	15 (1 台廃棄)	5	7	11 (2 台廃棄)	2	4	8 (1 台廃棄)
歩行器 (シルバーカー)	4	1	2	2 (1 台廃棄)	2	3	1
杖	18	1	0	19	1	5	15

【事業評価】

今年度もリサイクルボランティア2名が、毎月1回メンテナンス、修理を行った。平成 29 年度は広報に掲載後、問い合わせや利用が増えた。本事業は、介護保険サービスのつなぎの支援として大変喜ばれており、今後も広報に努め資源の有効活用として機材を整備し提供していく。

3 在宅生活を支援する資金の貸付

(1)資金貸付事業

生活保護申請者等の低所得者世帯や高齢者世帯、障害者世帯に資金を貸し付け、民生児童委員と連携し自立更正並びに生活の支援を行った。

①福祉資金貸付事業(市社協) 事業費:0円

(単位:円)

	件数	貸付額	償還額	償還未済額
29年度貸付	0	0	0	0
徴収不能金	0	0	0	0

	件数	貸付額	償還済額	償還免除額
償還免除	0	0	0	0

【事業評価】

今年度は、市社協としての貸付はなかったが、ただ単に貸付がなかっただけではなくその要因を考え、住民の方々が利用しやすいようまた周知が図られるよう見直しをしながら進めたい。

②生活福祉資金・老障資金貸付事業(県社協) 事業費:268,046円

★生活福祉資金貸付事業・貸付件数4件 貸付額649,000円

【事業評価】

今年度は主に生活困窮者自立相談支援事業の利用者へ生活再建の資金として、緊急小口資金を貸付し自立した生活に向けて支援した。今後も貸付制度の広報啓発に努め周知を図っていく。

4 ボランティア活動の支援

(1) ボランティア活動支援事業 事業費:2,392,404円

①ボランティア連絡協議会の運営

ボランティアのネットワーク化、ボランティア活動の情報の提供やボランティア保険の受付などにより活動を支援した。ボランティアまつりの企画開催や各分野のボランティア養成講座の開催など実施し担い手となるボランティアの育成・養成に努めた。

②ボランティア・市民センターの整備

ボランティア登録団体数・72団体 (団体・個人登録者 延べ1,044人)

③ボランティア養成講座

ボランティア活動を始めたい方、またボランティア活動に関心を持つ方を対象に専門的知識の習得に努めた。

★ボランティア養成講座開催状況

講座名	開催日	内 容	参加者数
生活支援担い手養成講座	7月27日	基礎講座 「私たちが今できること」 ・高齢者の特徴と対 ・対人援助の心構えと接遇 (グループワーク) 講師:千葉県介護福祉士会	49人
生活支援担い手養成フォローアップ講座	10月12日 10月19日	「簡単・楽しく・Let's体操」 ・介護予防体操の講義と実技 ・認知症予防について講義と実技 講師:富山国保病院及び松永醫院 理学療法士 講師:市健康支援課保健師	76人
給食ボランティア	11月13日 11月22日 11月29日	・食品衛生管理について 講師:安房健康福祉センター 小林智史氏 石井秀雄氏 ※南房総市内3会場において実施 ※調理実習は、市ボランティア連絡協議会にて企画を検討し、実施した。	167人
福祉体験	7月10日	・富山小 高齢者疑似体験	339人
	10月11日	・南小 車椅子・ガイドヘルプ体験	
	11月24日	・白浜中 車椅子・高齢者疑似体験	
	12月11日	・白浜小 高齢者疑似体験	
	11月21日 1月19日	・富山小 手話体験	
	12月14日 1月18日	・千倉中 高齢者疑似体験 ガイドヘルプ体験	
災害ボランティア養成講座	11月30日	「みんなで考えよう!災害について」 防災シュミレーションゲームクロスロード 講師:災害SLボランティアネットワーク 常務理事 天寺純香氏	30人
災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	1月20日	・災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 ①災害ボランティアセンターについて 災害時の支援体制や職員初動体制について 説明と支援活動マニュアル確認 ②ニーズ班の模擬訓練 (ニーズ受付表の作成) グループワーク (活動指示書の作成)	26人

サマーボランティアスクール	8月22日	・福祉ボランティア講座 ボランティアについて(講義) 市内ボランティア活動について グループワーク	23人
	8月23日	・防災ボランティア体験(コース選択) 災害ボランティアによる講座 (身近なもので作れるグッズづくり) 防災食の試食体験 安房消防による普通救命講習	
	8月24日	・施設体験(コース選択) 伏姫の郷 アイリスの里 光栄館 おもいやりの郷 リブ丸山 花の里	

④災害ボランティア活動

平成 29 年度は災害ボランティアの方々と一緒に、養成講座や災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練の企画運営にも携わっていただいた。協議の中で災害ボランティア委員の役割として「災害ボランティアセンターの立ち上げ時の運営スタッフとして活動をしていくことが重要であり、そのためのマニュアル検証など取り組んでいくことが必要」と委員自ら意見もあり、次年度に向けその取り組みを行い災害時においての体制整備を図っていく。

⑤ボランティア助成事業

ボランティアセンターに登録している団体のボランティア活動の活性化を図るため、団体の運営資金の一部を助成した。

★助成金交付実績

件数	合計	ボランティア団体(グループ)助成金内容
55 団体	1,600,000 円	80,000 円× 1 団体 = 80,000 円 (市ボラ連)
		40,000 円× 6 団体 = 240,000 円
		30,000 円× 34 団体 = 1,020,000 円
		20,000 円× 12 団体 = 240,000 円
		10,000 円× 2 団体 = 20,000 円

★助成金交付内容

市ボランティア連絡協議会協 80,000 円 ボランティア連絡協議会各支部 30,000 円
 会員 10 名未満 20,000 円
 会員 10 名以上 30 名未 30,000 円
 会員 30 名以上 40,000 円

【事業評価】

平成 29 年度も各分野のボランティア活動の充実を図るため各講座を開催した。特に生活支援担い手養成講座では高齢者や障害者への対応とした基礎講座に加え、お達者サロンや生活援助サービスを実施する上で必要な具体的な内容を取り入れた講座を開催した。このフォローアップ講

座については、市の担当課でもある健康支援課から講師を派遣し実施した。高齢者生活支援体制整備の位置づけとして、専門分野でもありハビリ部会やまた認知症部会と連携を図り実施できたことは良かった点である。

また、ボランティアスクールや福祉体験講座を開催し若年層のボランティア育成に努めた。

災害ボランティア養成講座では、一般の方々へ向けた養成講座の他、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練では、災害ボランティア委員と一緒にマニュアルの見直しを行うため、マニュアルに即した内容を訓練し検証した。大規模災害に備え、災害ボランティアセンターがいつでも立ち上げられるよう今後も訓練をしながら取り組みたい。

ボランティア助成金については、団体の登録人数により助成金の金額を見直し助成をした。助成金がより有効に活用されるよう支援したい。

また、平成 29 年 10 月からボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動を支援、より自主運営が図られるようコーディネーターが調整し支援した。

5 共同募金の推進

(1)共同募金事業

全国一斉に行われる共同募金運動は、10月1日から12月31日まで実施され区長を始め地域の方々のご協力をいただき活動が展開された。

①赤い羽根共同募金運動

区の役員をはじめ地域の方のご協力により実施していただいた。

皆さんから寄せられた募金は、社会福祉大会・結婚 50 周年・福祉機器リサイクル・介護者のつどい・福祉育成事業・広報紙の発行など地域福祉を推進するために活用した。

★募金実績

(単位:円)

	27 年度	28 年度	29 年度	前年度比較
戸別募金	6,543,325	6,521,139	6,383,893	△137,246
学校募金	151,062	145,901	95,013	△50,888
職域募金	20,323	15,854	16,139	285
個人募金	0	0	0	0
その他	96,337	97,913	85,269	△12,644
合計	6,811,047	6,773,090	6,580,314	△200,493

★募金箱コンクール 事業費：83,723 円

市内の小学生 1 年生～6 年生を対象に共同募金運動に関心を持ち、理解を深めてもらうため、募金箱コンクールを実施した。74 点の応募があり、優秀作品 10 点を公共施設に設置し、募金箱として活用した。

	低学年の部(1年～3年)			高学年の部(4年～6年)		
	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名
金賞	和田小学校	1年	高橋苺愛	富山小学校	4年	加藤友規
銀賞	南小学校	2年	渡邊花音	千倉小学校	6年	安田知央
銅賞	白浜小学校	2年	小川ひかり	富山小学校	5年	柴田美玲
アイデア賞	千倉小学校	3年	岡田卓也	南小学校	5年	松井川輝良
デザイン賞	三芳小学校	3年	鎌田さとみ	和田小学校	6年	高橋芽愛

★みなみんふれあい映画上映会の開催 事業費：131,059円

福祉育成を目的に、マスコットキャラクター「みなみん」とふれあいながら、小さなお子様や障がいのある方々、またご家族で参加していただける映画の上映会を開催した。社会福祉協議会の事業を紹介、赤い羽根共同募金運動の周知啓発を図った。当日は、募金活動を実施した。

開催日	タイトル	参加対象者	参加者数
2月25日	ミニオンズ	市内にお住まいの方	103名
3月11日	Sing シング	市内にお住まいの方	104名

①歳末たすけあい運動

12月1日から31日まで行われる運動では、赤い羽根募金同様戸別募金をはじめ市内中学生や民生委員の参加により道の駅とおどや3か所で街頭募金を実施し、多くの皆様のご協力をいただいた。寄せられた募金は、スローガンである「あったかいお正月」を地域で迎えられるよう、民生委員を通じて市内の支援を必要としている方々へお届けした。

★募金実績

(単位:円)

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
戸別募金	6,444,475	6,492,138	6,401,240	△90,898
街頭募金	85,592	70,601	98,875	28,274
法人募金	20,000	28,391	10,000	△18,391
職域募金	0	0	0	0
個人募金	40,060	31,759	30,791	△968
その他	37,154	53,791	10,014	△43,777
合計	6,627,281	6,676,680	6,550,920	△125,760

★歳末たすけあい配分一覧

(単位:世帯)

分世帯(者)	27年度	28年度	29年度	前年度比較
生活困難な支援世帯	24	22	24	2
独居高齢者	245	244	228	△16
高齢者のみ世帯	0	44	39	△5
寝たきり高齢者	32	32	22	△10
寝たきり障害者	11	9	9	0
重度心身障害者(児)	149	162	148	△14
母子家庭	59	58	51	△7
父子家庭	9	6	3	△3
児童養護施設	1	1	1	0
特別養護老人ホーム	7	7	7	0
老人保健施設	3	3	3	0
知的(精神)障害者施設	1	1	3	2
グループホーム	6	6	6	0
小規模多機能施設	3	3	3	0
小規模特別養護老人ホーム	1	1	1	0
グループホーム(障害者施設)	—	—	5	5
合計	551	599	553	△46
	3,205,000円	3,445,000円	5,940,000円	2,495,000円

【事業評価】

今年度の募金箱コンクールでは、子どもたちがより親しみやすくわかりやすいように、賞を「金・銀・銅・デザイン・アイデア賞」に変更した。参加児童が増えており楽しく取り組みやすいよう努めたい。赤い羽根募金運動の啓発活動として実施しているが、社会福祉大会での表彰もあり、親子での参加もいただいている。赤い羽根募金運動を身近に知っていただく事業と考える。

また、歳末たすけあい配分金は配分委員会において繰越金の問題を検討してきた。平成29年度からは生活状況に合わせ助成金を5,000円から10,000円に増額、また施設においても新たに障害者のグループホームなどの施設を加え配分した。今後も地域の募金活動の推進を図るとともに適切な配分が行われるよう、配分委員会において継続し検討していきたいと考える。

6 居宅介護の支援

(1) 介護保険事業

①居宅介護支援事業(ケアマネージャー1名)

事業費： 収入総額：4,539,070円 支出総額：3,769,123円 当期残額：7,69,947円

介護保険法に基づき、要介護・要支援認定者にケアマネージャーによるケアプラン作成や、介護保険施設、医療機関との連絡調整、また介護に関する相談受付支援などを行い、在宅介護を支援した。

★ケアプラン作成

(単位:件)

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
要介護	360	373	342	△31
介護予防	69	33	83	50
合計	429	406	425	19

【事業評価】

昨年度比でケアプラン作成数の要介護者数は31件減となり、介護予防についてのプラン作成が50件と増加している。この実績については介護保険制度の改正に伴い、予防への利用者が増加したためと思われる。今後ますます要支援者の対応が求められていく中で、支援の在り方についてよりニーズに対応できるようスキルアップを図りながら支援に努めたい。

②訪問介護事業（ホームヘルパー5名）（常勤1名非常勤4名）

事業費：収入総額：12,884,555円 支出総額：8,568,435円 当期残額：4,316,120円

介護保険法に基づき、要介護者へホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活の支援をした。

★高齢者の訪問介護

		27年度	28年度	29年度	前年度比較
利用者数(人)		505	376	386	10
訪問 介護 内訳 (件)	身体介護	886	821	787	△34
	生活援助	1,831	901	807	△94
	身体生活	271	0	0	0
	乗降介助	1,410	1,233	1,210	△23
	介護予防(人)	186	109	110	1
	合計	4,584	3,064	2,914	△150

【事業評価】

昨年度に比べ、身体生活以外の内容で、実績は大きく減っている。介護保険制度の改正に伴い、要支援者の対応が求められる中、社協が実施する訪問介護事業としての役割として、福祉サービスが利用できない方などはさまの方々への支援や、他の事業者が行わない方々への支援を実施していきたい。

(2)障害福祉サービス事業

①居宅介護支援事業

障害者総合支援法に基づき、ホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活を支援した。

★障害者の居宅介護

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
利用者数(人)	85	57	50	△7
訪問回数(回)	785	348	319	△29

【事業評価】

利用者の減により実績は減少している。介護保険制度の改正に伴い支援の在り方も変わってきている。利用者は減ってきているが、現利用者にとっては欠かせないサービスとなっており、ケアプランに沿った自立支援を目指し在宅生活の支援に努めたい。

(3)介護保険外事業

収支については、訪問介護事業に含み計上。

①在宅生活支援事業

(1)高齢者生活指導員派遣事業(市受託)

要介護及び要支援の認定を受けていない65歳以上の方を対象に、在宅生活で支援を要する高齢者や障害者にホームヘルパーを派遣し日常生活等に関する支援や指導する本事業は市独自のサービスであり、介護予防につなげる重要なサービスとなっていたが、市の意向で平成28年度をもって終了となった。

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
利用者数(人)	61	39	—	—
訪問回数(回)	216	150	—	—

【事業評価】

今後、要支援状態となる方の支援に、地域の社会資源を活用した「介護予防・日常生活支援総合事業」を適用していく方向にあることから、本事業は平成28年度をもって廃止となった。

本会では、それに伴い会員制のボランティアによる生活援助サービスの取り組みを開始した。

(2)高齢者外出支援事業(一部市補助)(登録者数82人)

単身高齢者及び高齢者世帯、介護保険該当者をホームヘルパーが通院や買い物等の支援を行った。

★外出支援件数

		27年度	28年度	29年度	前年度比較
自立	利用者数(人)	472	404	308	△96
	利用回数(回)	833	689	540	△149
要介護	利用者数(人)	353	310	307	△3
	利用回数(回)	766	679	651	△28
合計	利用者数(人)	825	714	615	△99
	利用回数(回)	1,599	1,368	1,191	△177

【事業評価】

昨年度に比べ利用者は99人の減少、利用回数は177回の減少で、年々減少傾向となっている。しかし高齢化が進み、かつ過疎地である当市では公共交通機関を利用し、自力で外出することが困難な高齢者が多いため、ニーズは以前と高い。課題としては、昨年同様職員の減員などにより、ニーズに応えきれない状況もある。今後も事業内容の見直しなどを市と協議する必要があると考える。

7 社会福祉協議会の活動基盤整備

①会員募集の加入状況

(単位:件)

	27年度	28年度	29年度	前年度比較
一般会員 (市内全世帯)	13,180	12,825	12,999	174
賛助会員 (活動に賛同される個人など)	405	403	464	61
特別・施設団体会員 (福祉施設・団体など)	170	156	142	△14

②福祉基金積立額

基金の種類	積立額
福祉振興基金	92,746,615 円
災害対策基金	11,828,369 円
ボランティア基金	1,503,241 円
合計	106,078,225 円

理事会議案一覧 〈平成29年度〉									
番号	会議回数	提案年月日	出席者数	番号			日程	件名	審議結果
				議案	報告	その他			
1	1	29.5.24	理事12 監事2		1		1	福祉資金貸付金償還免除について	承認
2				1			2	平成28年度事業報告並びに決算の承認について	承認
3				2			3	平成29年度補正予算(第1号)について	可決
4				3			4	評議員選任・解任委員の選任について	可決
5				4			5	評議員選任候補者の推薦について	可決
6				5			6	就業規則の一部を改正する規則の制定について	可決
7							1	7	評議員会の開催について
8	2	29.6.16	理事11 監事2	6			1	会長の選任について	可決
9				7			2	副会長の選任について	可決
10	3	29.9.28	理事10 監事2		2		1	事業(職務)の執行状況について	—
11						2	2	平成30年度事業方針等について	—
12	4	29.12.20	理事8 監事2	8			1	専決処分の承認を求めることについて ・平成29年度補正予算第2号について	可決
13				9			2	平成29年度補正予算(第3号)について	可決
14				10			3	経理規程の一部を改正する規程の制定について	可決
15				11			4	社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について	可決
16				12			5	評議員会の開催について	可決
17					3		6	職務の執行状況について	可決
18					4		7	平成29年度南房総市指導監査結果について	承認
19						3	8	平成29年度第12回南房総市社会福祉大会の開催について	—
20	5	H30.3.19	理事11 監事2	13			1	定款の一部を改正する定款の制定について	承認
21				14			2	職員の給与に関する規則の一部を改正する規則の制定について	承認
22				15			3	専決処分の承認を求めることについて ・平成29年度補正予算(第4号)について	承認
24				16			4	平成30年度事業計画について	承認
25				17			5	平成30年度予算について	承認
26				18			6	評議員会の招集について	承認
27					5		7	平成30年度事務局組織体制について	—

評議員会議案一覧 〈平成29年度〉

番号	会議回数	提案年月日	出席者数	番号			日程	件名	審議結果
				議案	報告	その他			
1	1	29.6.16	19	1			1	平成28年度事業報告並びに決算の承認について	承認
2				2			2	平成29年度補正予算（第1号）について	承認
3				3			3	役員の報酬及び費用弁償に関する規程の一部を改正する規程の制定について	承認
4				4			4	理事の選任について	可決
5				5			5	監事の選任について	可決
6	2	30.1.10	16	6			1	平成29年度補正予算（第2号）について	承認
7					1		2	職務（業務）の執行状況について	—
8					2		3	社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について	—
9						1		4	第12回南房総市社会福祉大会の開催について
10	3	30.3.27	16	7			1	定款の一部を改正する定款の制定について	承認
11				8			2	専決処分承認を求めることについて ・平成29年度補正予算（第4号）について	承認
12				9			3	平成30年度事業計画について	承認
13				10			4	平成30年度予算について	承認
14				11			5	理事の選任について	承認
15					3		6	平成30年度事務局組織体制について	—

平成29年度事業報告には、社会福祉法第45条の27第2項に規定する附属明細書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年5月

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

